

令和6年度前期大学院科目等履修生開講科目一覧表

科目名	担当教員	単位数 (時間数)	配当年次	開講日程 (※注1)		授業方法
				曜日	時限	
看護研究概論	玉田 章 他	2(30)	1年前期	火曜	E-1	遠隔授業 (一部対面)
看護教育論	上田 貴子	2(30)	1年前期	月曜	E-1	遠隔授業
看護管理論	中西 貴美子	2(30)	1年前期	火曜	E-2	遠隔授業
英書講読	ドライデン いづみ	2(30)	1年前期	月曜	E-2	遠隔授業
人文社会看護学特論	小池 敦 他	2(30)	1年前期	金曜日	E-1	対面授業
自然科学看護学特論	大西 範和 他	2(30)	1年前期	木曜	E-1	対面授業
看護教育学特論	上田 貴子	2(30)	1年前期	火曜	E-1	遠隔授業
母性看護学特論	大平 肇子 他	2(30)	1年前期	火曜	E-2	対面授業
成人急性期看護学特論	玉田 章 他	2(30)	1年前期	金曜	E-2	遠隔授業
成人慢性期看護学特論	大川 明子 他	2(30)	1年前期	水曜	E-1	遠隔授業 (一部対面)
老年看護学特論	清水 律子 他	2(30)	1年前期	水曜	E-1	遠隔授業
在宅看護学特論	日比野 直子	2(30)	1年前期	木曜	E-1	遠隔授業

(注1): 授業時間 E-1時限-18:00~19:30

E-2時限-19:40~21:10

開講日程は、変更になる場合があります。

【参考】科目目的

看護研究概論	看護実践の場において専門知識・技術の向上や開発を図るために必要な研究の概念や意義、研究プロセス、文献活用の意義とクリティック、量的・質的研究方法の基本、研究での倫理的配慮を理解し、研究計画書を作成するための基礎的能力を修得するとともに、研究成果を内外に周知するための学術論文の文章作法やプレゼンテーション方法についても学ぶ。
看護教育論	看護専門職者の育成、特に継続教育を担う人材となりうる教育観と知識を修得する。
看護管理論	組織論をはじめとする看護管理の基本となる諸理論を理解し、変化し続ける医療および医療を取り巻く現状の中で、質の高い看護を提供するために必要な看護管理のあり方について探求する。
英書講読	グローバルな視野から看護・医療について考察するために、英語で書かれた看護・医療論文や記事を読むためのテクニックを身につけると同時に、医療、看護に関する語彙を習得し、その語彙を使えるようにする。また、論文の抄録を英語で書く能力を身につけることを最終目標とする。海外の看護師事情を把握し、国際社会において1人の人間として、或いはプロの看護師・医療従事者としての在り方、及び患者への対応方法を様々な視点からの的確に判断できるようになる。
人文社会看護学特論	看護ケアとその対象となる人々の生活経験（日常生活、誕生、病気、障害、死など）について、心理的側面・社会的側面・倫理的側面の3つの側面からアプローチすることの看護学的意義を探究する。
自然科学看護学特論	生理学、生化学、人間工学や情報学等の自然科学分野の知見や考え方にもとづいて看護学を俯瞰し、これらを生かした看護方法や看護の在り方を探求する。
看護教育学特論	看護職および看護学にかかわる教育制度、教育課程について学び、看護教育を担う人材となる基礎力を養う。
母性看護学特論	周産期にある母子とその家族、および思春期・成熟期・更年期・老年期女性の生活反応・健康状態・適応状態など臨床診断に必要な遺伝学的知識、生殖内分泌学的知識、周産期医学的知識、女性医学的知識、人間発達学的知識を強化する。 母性看護の対象理解と実践に必要な基本概念と支持理論を踏まえ、周産期母子および女性のライフサイクル全般にわたる健康問題について理解を深める。
成人急性期看護学特論	急性期疾患に特徴的な病態生理および危機的状況にある患者を理解するために、成人期の人々の心身の特徴を総合的に教授する。
成人慢性期看護学特論	成人の慢性的な健康問題（慢性疾患やがん）をもつ人々および家族が抱える問題とその背景を学び、慢性の病いとともに生活を営む人々や家族の理解とその看護の重要な概念や理論について探求し、成人慢性領域の看護を実践するための理論的基盤を養う。
老年看護学特論	高齢者看護に関わる諸理論や概念について学習し、看護実践への活用方法を検討する。また、倫理的課題をふまえ、高齢者や家族の意思に基づいた看護を実践する能力を養うことを目的とする。さらに、老人看護専門看護師の役割や機能を理解し、高齢者看護の専門性を探求する。 なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野共通科目）「1. 老年看護の基盤となる科目」に相当する科目である。
在宅看護学特論	地域・在宅看護に関連する基本的な理論や概念について学修し、看護実践への活用について探求することができる。在宅看護における倫理的課題をふまえ、在宅療養者や家族介護者を尊重する看護実践力を養うことを目的とする。地域で活動する訪問看護師の役割と機能を理解し、今後の在宅看護の展望を検討する。